道徳だより

Do 徳？
どう説く？
道 talk！

テーマ：全ての児童を取りこぼさない細かなテクニック

令和７年９月
京都市立道徳教育研究会
広報部
（第５号）

今回は、７月２９日（火）に御室小学校　大平　龍之介教諭に行っていただいた、授業実践力向上講座から「子どもたちが道徳的な問題を『自分事』として考えるための工夫」について紹介させていただきます。なんと今回は、２４０名ほどの先生からの申込があり、道徳教育に興味をもってくださっている先生方の参加が多く後半の協議は、大変盛り上がりました。

内容項目：Ｂ　友情・信頼
第６学年「ロレンゾの友達」（「生きる力」日本文教出版）
本時の「めあて」
　友情をもっと深めるにはどんな考えが大切だろう

今回は、中心発問を子どもたちの声から拾い上げ、考えさせることで自分事としてとらえられるこどもにするためのテクニックをご紹介します。

↓

さらりと模擬授業をされていましたが、
ポイントがいっぱい！！

コーディネーター
御室小学校
　教諭　大平　龍之介
（シニア・マイスター）

① 範読前に聞く視点を示しておく →「友情について考えたいこと、疑問に思ったことについてお話を聞いた後、ペアで話し合ってもらうよ。」この一言で、この長いお話の内容の何を聞き取ればよいのかが明確になる。

今回の授業では、上記の視点を子どもにもたせておられましたが、
他には↓

- お話でなぜ？なんで？と思うところ
- 主人公のすごいなと思うところ
- 心が動いたところ
- みんなと話し合いところ
- 友達の意見を聞いてみたいところ

価値にせまるためには、どの言葉を選べばよいのか・・・

なども、内容をつかむ視点として使われているそうです。

今回の授業で提案された、その１

『みんなと考えたいところや疑問は？』（いわゆる中心発問にあたるところです。）

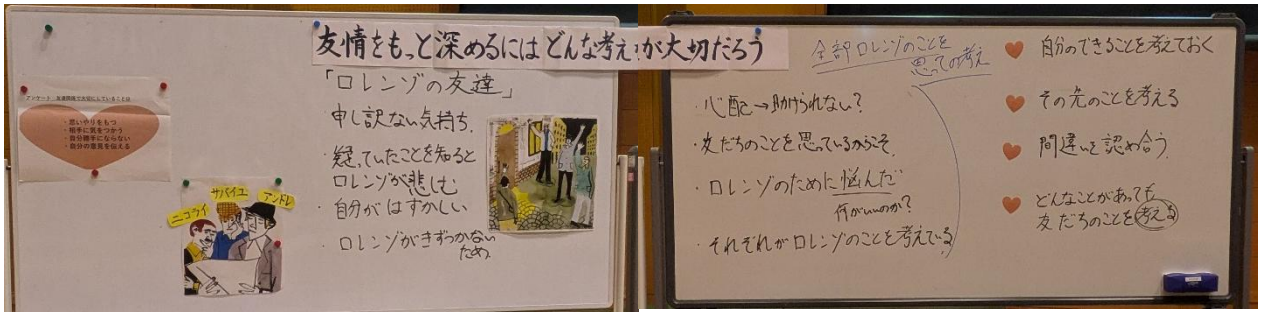
という問いかけでは、子どもたちからたくさんの内容が出てきます。いっぱい考えたいことが出てきた。といって全ての疑問について考えていこうということではなく、本当に今回の授業で考えさせたい価値になっているのか先生が舵を取らなければいけないところです。道徳の教材は、たくさんの価値項目が登場してきます。子どもたちが考えやすい言葉が出てくると思いますが、価値から“ブレ”ないようにしなければいけません。ということは、教材研究がとても大事になってきます。

では、選ばれなかった内容は、ダメだったのか。正解不正解ではなく、今回の価値に迫りやすくなかっただけで、そこに疑問を感じたことはよかったと思わせる工夫も必要。子どもの意見や心は、無駄にはしない。

その２協同的な学び、グループ活動でホワイトボードを使う

子どもたちの考えや思いを共有するという意味でホワイトボードを授業で活用されていました。考えをまとめるのではなく、整理するだけ。ただ、そのホワイトボードは、板書には貼らない。たくさんの意見が出てるように見えるが何が書かれているかわからない。そうなると板書がごちゃごちゃしているだけで、子どもたちの授業の支援に繋がっていない。ホワイトボードは、みんなの意見を整理するだけの為に使う。支援に繋がらない板書はいらない。

今回の板書↓



板書は、シンプルに。だから、この１時間に考えた内容が支援の必要な児童にわかりやすい。

その３　振り返りで目指す姿は、３つの視点で書く。

１　今まで　（過去の自分）
２　学んだこと　（現在の自分）
３　これから　（未来の自分）

『自分事』で考える。その後、一人一人全員立って動きながら交流する。
☆友だちから新しい発見を見つけながら交流する。

今年度の研修会は、見て学ぶだけでなく、最後に協議がありました。そこで、交流されている先生方の姿は、『今回の講座の内容を自分ならとこうした。』と自分事に落とし込んで話し合いをされていた先生方が多かったように思います。研修会に参加した何よりの収穫ではないでしょうか。是非、その後実践された先生方は、授業してみてどうだったのか道徳研究会に交流しに来てください。最後に、大平先生ご提案いただき、ありがとうございました。

【文責　河田　理江（開睛小中学校）】